

# 地域から信頼され、愛される愛媛大学を目指して

## 地域と共に働き、輝く 地域創生に挑戦する

### 第14回

## メインキャンパスとのハイブリッド型連携活動拠点 として地域協働を展開する地域協働センター中予

愛媛大学社会連携推進機構 地域協働センター中予（以下、「本センター」という）は、愛媛大学の戦略の一つである「地域産業イノベーション創出」の一環として、また地域のステークホルダーの皆様方と協働し地域を活性化するための拠点として、令和3年3月に設置された。本センターは、東温拠点と松山拠点から成り、「地域協働センター中予東温」では健康・医療を中心にウエルネス事業、観光業、農林業等の発展を通じて地域及び地域産業の活性化、「地域協働センター中予松山」では観光・文化を中心に、観光サービス業の人材育成に係るリカレント教育や地域の芸術文化振興等の活動を推進する。

### ■設立の経緯

愛媛大学では、地域のステークホルダーの皆様と協働して地域活性化に貢献する「地域協働センター」を県内に展開しており、平成28年（2016年）7月に設置された「地域協働センター西条」、令和元年（2019年）10月に設置された「地域協働センター南予」に続き、令和3年（2021年）3月に「地域協働センター中予」を設置した。「地域協働センター西条」は、社会人リカレント教育、高大連携、産学官連携などより幅広い分野で地域課題の解決に貢献

している。「地域協働センター南予」は、南予地域の全9市町との連携、協働を推進する目的で、西予市に設置され、南予地域に共通する課題（人口減少、鳥獣害、空き家問題、公共交通網維持、柑橘産業復興など）に取り組むとともに、各市町特有の課題にも対応している。一方、本センターは、メインキャンパスが立地する特性を最大限に活かしながら、本学と中予地域の市町やステークホルダーとの協働によって、ウエルネス事業、観光業、農林業等の発展を通じて地域及び地域産業の活性化、地域の芸術文化振興等に貢献することを目的としている。具体的に、東温市の東温市農村環境改善センター及び松山市の本学城北キャンパス内に活動拠点を置く予定で、東温拠点では、本学の組織の中でもっとも大きい人的資源をもつ医学部・医学系研究科、附属病院が中心となっており、「健康・長寿プラットフォーム創生事業」のさらなる展開によって、健康・医療などの分野でより一層の地域貢献活動を展開し、ウエルネス事業、観光業、農林業等の発展を通じて地域及び地域産業の活性化に取り

## 「地域協働センター中予」 設置記念シンポジウム

**日時** 令和3年3月16日 火  
14時30分～17時00分

**会場参加** (定員50名)  
愛媛大学南加記念ホール

**オンライン参加** (ZOOM)

主催：愛媛大学  
社会連携推進課  
地域協働センター中予

※会場参加・オンライン参加  
ともに、3月11日(水)  
までに事前申し込み(下記)  
が必要です

愛媛大学では、地域のステークホルダーの協力を促進して地域活性化に貢献する「地域協働センター」を年内に開設してきており、令和3年3月に「地域協働センター中予」を開設いたしました。本シンポジウムでは、同センターの開設意義及び中予市におけるステークホルダーの役割と理解共有を図るとともに、同センターへの今後の期待について議論します。

■開会挨拶 ■ 14:30～14:50  
字長挨拶 愛媛大学長 大橋 浩一  
米實挨拶 東温市長 加藤 幸哉  
米實挨拶 産官学連携産業界振興協議会会長 河内 成志 氏

■講 演 ■ 14:50～16:15  
(1) 愛媛大学の地域連携戦略における地域協働センター中予設置の意義  
愛媛大学理事・副学長/社会連携推進課長 三村 弘重  
(2) 地域協働センター中予が目指すもの  
愛媛大学地域協働センター中予副センター長 今村 健志  
愛媛大学地域協働センター中予副センター長 藤村 一美  
愛媛大学地域協働センター中予副センター長 相田 寿博

■意見交換 ■ 16:15～16:50  
《進行》愛媛大学地域協働センター中予副センター長 前田 眞

■閉会挨拶 ■ 16:50  
愛媛大学副学長 若林 良和  
《司会》愛媛大学学長特別補佐 池多 伸介

▶参加申し込み方法：メールまたは電話  
(西側、参加者名、会場参加・オンライン参加の別をご連絡ください)  
▶参加申し込み先：愛媛大学社会連携支援部地域連携推進室  
E-mail: chikid@yu-euime-u.ac.jp TEL: 089-927-8512  
※本学が主催する「施設利用にあたっての感染防止対策」を遵守して実施します。会場参加いただく方はマスク着用及び入口にて手洗消毒をお願いいたします。

図1 地域協働センター中予設置記念シンポジウム  
ポスター

組む。一方、松山拠点では、観光業の振興に係わる人材の育成や多様な文化資源にフォーカスした活動を展開する。以上のように、本センターは、先行する2センターとともに、地域のステークホルダーとの連携強化を通じて、愛媛大学の果たすべき社会的使命を全うすべく、活動を推進する。

本センターの設置記念シンポジウムは、令和3年3月16日(火)に開催された(図1)。コロナ禍の中、ハイブリッド形式で、南加記念ホールにて会場44人、ZOOMによ

るオンライン78人計122人の参加を得て開催された。大橋学長の開会挨拶、加藤東温市長並びに河内広志産官学連携観光産業振興協議会会長からのご祝辞の後、仁科弘重理事・副学長(現学長)から「愛媛大学の地域連携戦略における地域協働センター中予設置の意義」と題して、本学の地域連携戦略(連携協力協定、地域密着型センターの県内展開、地域協働型センターの設置、公開講座、地域専門人材育成・リカレント教育)における取り組み状況等と今後の

社会連携の展開や本学が目指すべきことについて講演があった。

次に「地域協働センター中予が目指すもの」と題して、東温拠点においては、今村健志地域協働センター中予副センター長から東温市と協働して実施している「とうおん健康医療創生事業(以下、「本事業」という)」の取り組みや医工連携・医農連携の展開について、藤村一美副センター長から地域における看護学科の取り組みについて、松山拠点においては、和田寿博副センター長から観光業人材育成の取り組みや展開について、それぞれ具体的な事例等を交えながらリレー形式で講演があった。

る有意義なシンポジウムであった。

### ■センターの取り組み・活動

本センターは令和3年3月に設置されたばかりで、本格的な活動はこれからであるが、愛媛大学では、これまでに医学部・医学系研究科と附属病院がある東温市と、医学部・農学部以外の5学部4研究科がある松山市で、それぞれ地域貢献活動を展開してきた。

この後、仁科理事・副学長、今村センター長、藤村副センター長及び和田副センター長が登壇し前田眞副センター長の司会で、自治体、企業等からの会場参加者の意見も交え、設置の意義、目指すべき方向性や抱負について、活発な意見交換を行った。同センターの門出を飾るに相応しい、今後の諸活動を進めるうえでの指針とな

医学系研究科、附属病院が中心となつて、平成28年(2016年)に、愛媛大学と中小零細企業が連携し、「ものづくり産業の創生」や「ヘルスケアの創生」などを行う「とうおん健康医療創生事業」を立ち上げた。https://www.meime-u.ac.jp/foan/。本事業では、有識者による「東温市健康医療創生研究会」を設立し、この研究会を中心に、「ものづくり産業の創生」として、愛媛大学医学部と中小零細企業が共同で医療・介護関連機器の部材供給や、研究・



図2 ヘルスツーリズムのポスター



図3 さくらの湯ランチ 伊賀瀬センター長による検査結果説明の様子



図4 地元企業との産学連携事業  
新型コロナ対策の医療用ガウン及びフェイスシールドの  
共同開発のプレスリリース

開発等を行ってきた。さらに「ヘルスケアの創生」として、ヘルスツーリズムによる東温市でしか体験することができない旅行商品の開発、生活の質向上食品等の開発などを検討してきた。具体的には、東温市の企業の従業員を対象とした健康に関するコーホート研究の実施や、東温市の自然や施設・食材等を活用したヘルスツーリズムの実施(図2)及び市内の温泉施設・さくらの湯で抗加齢体験ができる「さくらの湯ブランチ」を開

設(図3)するなど、ヘルスケア事業において密な連携を図ってきた。また、最近では、新型コロナウイルス対策の医療用ガウン及びフェイスシールドを地元企業と産学連携で共同開発する(図4)など、ものづくりにおいても積極的に活動している。さらに、PHC株式会社(旧パナソニックヘルスケア株式会社)と、研究連携推進に関する協定を締結するなど、産官学連携の活動地盤を固めてきている。

一方、観光・文化については、  
 本学の城北キャンパスを中心に活動を進め、これまで観光業に係わる人材育成事業としてさまざまな国の事業に採択され、観光業の就労者と初心者を対象として、愛媛県・瀬戸内地域の観光を学び、観光業を担う人材を育成するリカレント教育プログラムを開講し、「愛媛県・四国の儲かる観光サービス業を担う中核人材育成事業」などの事業を実施し(図5)、愛媛県の宿泊業、旅行業、物産業、観光まちづくり等の担い手が、こ

の事業を受講・修了し、職場・地域で活躍している。  
 また、四国で唯一の「文系から理系まで幅の広い専門領域をもつ」愛媛大学の役割として、令和元年(2019年)に社会連携推進機構に「地域文化研究部門」を置き、「地域共創研究センター」「四国遍路・世界の巡礼研究センター」「俳句・書文化研究センター」の3文系研究センターを設置した。3文系研究センターでは、人文・社会科学の研究成果や活動

# 愛媛県・四国の 儲かる観光サービス業を担う 中核人材育成講座

優れた講師！  
楽しく学ぶ！  
仲間ができる！



対象	観光地経営・旅行・交通・宿泊・飲食・物産販売等、観光サービス業の管理職、後継者等の中核人材
定員	15名
日程	2020年9月24日(木)～2020年12月2日(水)
事業期間	2020年6月24日(水)～2020年9月18日(金)
会場	愛媛大学城北キャンパス施設等
授業時間	全7回 50時間(自学10時間を含む) 平日午後等に実施
授業講師	観光サービス業経営者・学識経験者・観光庁職員等
授業料	無料(視察時の費用を徴収することがあります)

観光庁サイト令和2年度「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」  
[https://www.mlit.go.jp/kankocho/topics06\\_000255.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/topics06_000255.html)

愛媛大学 観光中核人材育成講座  
<https://www.ehime-u.ac.jp/post-123969/>

観光中核人材育成講座事務局  
お問い合わせ 〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部社会科学講座 和田寿博(教授)  
TEL・FAX・089-927-9260 E-mail: kankojin@stu.ehime-u.ac.jp

図5 リカレント教育プログラムのポスター

「地域における  
知の拠点」としての機能を発揮し続けていく。

愛媛大学は、幅広い総合力をさらに活用し、地域の永続的な発展に貢献する

「地域における知の拠点」としての機能を発揮し続けていく。

と連携することによって、地域の個性や歴史を活かし、芸術文化が輝き、市民の創造的活動を基礎とする観光業などの産業振興、幸福を実現できるまちづくりなどを推進している。本センターでは、3文系研究センターとも連携し、観光業の振興に係わる人材の育成や

多様な文化資源にフォーカスした活動を展開する。

■今後の展望  
愛媛大学の基本理念の一つに「地域とともに輝く大学」とあり、その第一の戦略として「地域の持続的発展を支える人材育成の推

進」、第二の戦略として「地域産業イノベーションを創出する機能の強化」が掲げられている。本センターの設置により、3つの地域協働型センターがそれぞれ東・中・南予の全体をカバーし、有機的に連携しながら県全域の地域活性化を図っていくことが可能になった。さらに、



愛媛大学  
社会連携推進機構 地域協働センター中予  
センター長・教授 (大学院医学系研究科)  
博士 (医学)

今村 健志 (いまむら たけし)

2010年10月 愛媛大学大学院医学系研究科 教授  
2021年3月 愛媛大学社会連携推進機構  
地域協働センター中予 センター長  
2021年4月 愛媛大学 副学長 (広報担当)